



一緒にご詠歌を

お唱えしませんか♪

今年4月に発足したご詠歌の会、現在7名の生徒さん（講員さん呼びます）と私、若（？）住職との8名で楽しくお唱えをしています。さらに、軌道にのってきたかなというこの9月に真言宗豊山派大師講宝泉寺支部として、正式に宗派に認められた「講」（サークル活動のことを昔は「講」と言っていました。）となりました。

これまで何度かお伝えしてきましたが、改めて。

ご詠歌とは、仏さまの教えを民謡調の旋律に乗せお唱えする仏教賛歌のことで、なかでも、三十一文字（みそひともじ＝五・七・五・七・七）の和歌にメロディーをつけたものを「詠歌」といい、七五調のものを「和讃」といいます。たびたび、この紙面でも登場する「声明」と何が違うかといえば、「声明」は様々なお経に節をつけて唱える僧侶しか歌えない仏教音楽なのに対し、「ご詠歌」はやさしく説かれた仏さまの教えを歌詞とし、メロディーも親しみやすく誰もがお唱えできるというところでしょうか。

右の図はご詠歌の譜面です。何だか難しそうだなあと感じられるかもしれませんが、カラオケで譜面を覚えて歌っている人はいません。耳

（春は霞に鳥歌う 卯月八日ぞめでたけれ）

花まつり和讃

頭はア
るはか
すみに
とりう
とうオ
オオ

助う
ウづ
きよう
オかぞ
め
でた
けれ
エ

三二拍 1/45

で覚えて、とにかく楽しく歌うことが一番です。お試しで遊びに来られて、やっぱり私には合わないわ。と帰られる方もいらっしゃいますから、少しでも興味のある方は遠慮なく宝泉寺ご詠歌の会にお越し下さい。

☆宝泉寺ご詠歌の会☆

日時:毎月第一・三土曜日 午後2時～4時

会場:宝泉寺るり洞（本堂地下）

会費:一回500円（経典購入の為に積み立てています）

参加資格:特になし

講員さんのお一人で、世話人さんを勤めていただいている佐々木三都男さん(64才)に「ご詠歌の会」をテーマに寄稿いただきました。

今年4月の「お花まつり」の行事に伺った際、若住職の「花まつり和讃」を聴き、「あんなに綺麗な声で謡えたら、さぞ気持がいいだろうなあ」と考えておりました。その数日後、再び宝泉寺さんにお参りしたところ、「4月から御詠歌の講習会を始めます。」という張り紙を目にし、筆者は宝泉寺さんのお檀家さんではありませんが、それがきっかけで4月21日に初めて練習会に参加いたしました。

最初は、若住職をいれて11名で習い始め、当初は緊張もありましたが、回を重ねて行くうちにお互いに打ち解けて御詠歌の練習の後の「お茶会」でも楽しく談笑ができるようになり、若住職さんや大住職さんのお人柄もわかり楽しい会になってきました。

御詠歌は一行に進まない(現在でも何とか「花まつり和讃」を間違えながらも謡える程度)のですが、若住職が選曲して編集してCDにしてくれた「花まつり和讃」「如来和讃」「長谷寺和讃」「弘法大師和讃」・・・を聴いて楽しんでいます。

会の途中に若住職のご法話や、和讃の歌詞の意味も説明していただき、毎月の第一と第三土曜日が楽しみになって参りました。会に参加のメンバー同士の実家が実はごく近かったり、あるメンバーが保護した迷い犬が偶然にも筆者の隣の家から逃げた犬だったり、筆者が勤めている会社の大先輩がメンバーにいらっしゃったり、お大師様のお導きでご縁も深まっている今日この頃です。

私たちが新しい仲間を待っています。一緒に楽しくご詠歌をお唱えしませんか。

佐々木三都男

平成24年 りりの会

夕方ぞくぞくと子ども達が集まってきていよいよ開始です。今年は例年よりも10人ほど少ないメンバーでのスタート、何となくゆったり、じっくり出来るかなと新しいプログラムも考えていました。しかし想像？期待はしょっぱなから外れでした。子ども達のパワーは初めから全開、夜は夜で眠らないことが目標とでもしているかのように夢中になって遊んでいます。こちらとしてもちょっと悩むところもありますが、こんな非日常もいかと締め付けもつい甘くなってしまう。

子供会育成会の代表の方に文章をよせて頂きました。

お泊まり会

新井トモミ

毎年、境内でのラジオ体操、続いて「りりの会」では地区の子供達がお世話になりまして有り難うございます。今年は娘も参加させて頂き、私も「りりの会」を少し拝見させて頂きました。

本堂に集まりお経を唱え終わると、待ちに待っていた夕食です。流しそうめん、おにぎり、フランクフルトをたっぷり御馳走になりました。いよいよ肝試し、「怖い」でも「楽しい」と毎年のプログラムです。夜は男の子も女の子も夜更かしをし、それが又楽しくて楽しくてたまらないという時間のようです。子供達にとってひと夏の深い思い出と為ったと思います。毎年、ご住職様はじめ色々な方々の御支援のおかげです。本当に有り難うございます。

NPO法人 颯埜扉 (しのひ) 誕生

管理責任者 色摩玉江

若い頃、福祉施設に勤務しており退職後も福祉の世界が長年気がかりでした。とりわけ「人間はなぜ悩むのか」から精神疾患の方が大事に思えてきました。そのようなことから、まず居場所を作ろうと考えたのです。

そして今から9年前「精神障がい」により生きづらさを抱え、不安になりやすい方々へ「居場所」と「お手伝いを通じて自分を再発見」して欲しいと、有志が集い「フリースペース颯埜扉」を立ち上げました。法律が変わり利用する方も増え続け、様々ないきさつの中、NPO法人となりました。

所沢市だけでも5千人以上の方が精神科を受診していると言われて
います。少しでも気がかりなことがありましたらお気軽にお越し下さい。
専門の職員がおりますので十分にご相談に応じることが出来ます。

また、檀信徒の皆様から常々多くのご寄付や献品をお寄せ頂き感謝にたえませ
ん。本当にありがとうございます。

お中日には境内をお借りして、バザー
を開催致しますのでどうぞお立ち寄り
下さい。

NPO 法人
颯埜扉バザー
◎ 9月22日(土)
10時～3時半
◎ 寶泉寺境内

記録更新 の暑さが未だに続き、当地特産の里芋が痛々しい
ほどの姿を見せていますが、しかし確実に秋らし
しさも感じるようになっていきます。我が家の鈴虫の鳴き声もかなりポリ
ュームが下がっているのもその現れです。その声を聞きながら今、ある
研究者が行ったコオロギの実験を思い出しています。

実験とは以下のように条件を変えて四つのグループでコオロギを飼
育します。

- ① いつも贅沢 ②いつも贅沢でときどき貧乏
③いつも貧乏でたまに贅沢 ④いつも貧乏。

贅沢というのはいつも十分に好きなエサを与えること、貧乏とは生きる
ための最低限のエサを与えることです。そしてその研究者の分析では
「いつも貧乏でたまに贅沢」な環境が一番生命力を高くし、「いつも贅
沢」が最低の結果となりました。そのまま人間に当てはめるわけにはい
かないがなかなか示唆に富む実験だと思えます。

編 集 後 記

* 玄関や境内で「奥さん見かけないけどお元
気ですか」と声をかけられたことも何度
か、この頃では皆さんと声を交わすことも
めっきりと減ってしまったが、しぶとくよ
そで活動を続けている。年はいつているが
もうちょっとはがんばりたい意向のよう
だ。

* るりの会の参加者。去年は6年生が3分の
1を越えていたが、卒業の今年は参加者が
その分少なかった。少子化がこんな所にま
で現れたか、特にあの学年はミレニアムベ

イベーだそうだ。

* 一方、高齢者のこと。近くの公民館では今
年も敬老の日の行事が行われた。100才
以上の高齢者が増えているとの新聞記事、
特に2000年頃からは急カーブ。政治が
難しいのもわかる気もする。

* 政党トップを決める政治ショウ？が盛か
ん。特に自民党は大臣経験者のご子息がそ
ろった。潤沢なジバン、カンバン、カバン
の三点揃い。つついコオロギの実験が頭
をよぎる。

2012/09/16